

食物過敏症：その1

「食品過敏症が慢性疾患の原因になる？」

アメリカの「ジェームス・ブラナマン医師」

彼は、当時「米国アレルギー医師会、食品アレルギー委員会の委員長」でした。

その彼の研究レポート（1968年に出ている）にこう書かれています。

（随分昔からこの文献は出ていたが、広まらなかった。それには医療産業の抵抗によるものでした。）

被験者は69人で、このうち胆石が確認されていたのは51人。

既に、胆嚢を摘出されていた患者が18人いたが、彼らも一様に胆嚢発作に苦しんでいた。

被験者全員に、アレルギーを起こしにくい食品だけで構成した「食事」を与えた結果。

「1週間で、すべての患者の症状が消失した」

その後、患者たちは日常食べていた食品が1種類ずつ試されていき、食べた後に胆嚢の痛みが出る食品は除去されていきました。

白黒のはっきりしない食品に関しては、短い間隔で再テストが繰り返されました。

又特定の薬品に過敏に反応する患者がいる事も分かったそうです。

最終的には、1人平均4～5種類の食品を除去する事によって、胆嚢の痛みと縁を切る事に成功しました。

ちなみに、卵には69人中64人は過敏に反応したそうです（93%）

胆嚢の食事療法では油分が基本的には制限されますが、彼（ブラナマン医師）は、それも自由に食べさせました。

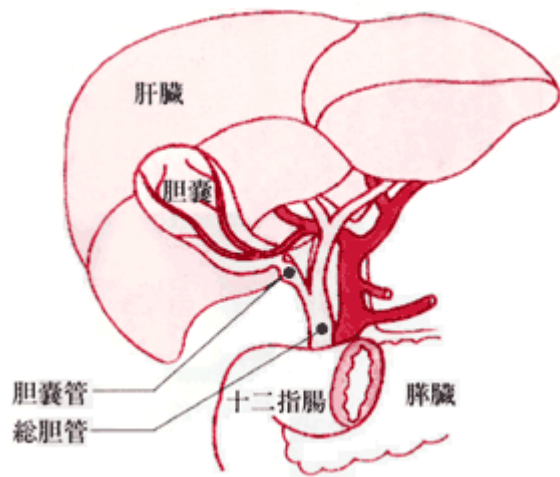
それでも、アレルギーと考えられている食品だけを除去していれば、発作が起きる事はなかったそうです。



しかし、既に胆石が出来ている患者の胆石を「アレルギー除去食」で溶かす事は出来ません。

しかし、今まで常識と考えられていた・・・

「胆石が胆嚢の痛みを誘発する」という考え方に疑問を持ってみたら・・・



胆嚢内の「胆石」の映像

この医師の、すごい所は、医学的な常識とされてきた（当然学んできた）知識を、真っさらにして、再検討し仮説を立てて証明する所だと思います。

どこに、「胆石が胆嚢の痛みを誘発する事」に疑問を持つ、医療関係者が居ようか！？

「超音波検査後、胆嚢に石が見つかった！」

「はい！これが原因ですね！切除手術をしましょうか！？」

これが、当り前の流れですから・・・

彼は・・・

「アレルギー反応によって胆管が膨張し、それによって胆汁の流れがせき止められたり、遅れたりする事によって、胆嚢に痛みが走るのではないか？」

と解釈したのです。

仮に、胆汁の流れがせき止められるのが痛みの原因だとすれば、アレルギー除去食で、胆嚢摘除後症候群が改善される事も説明が付きます。

トラブルの原因が、胆嚢ではなく胆管だとすれば、胆石の見つからない患者が、胆嚢発作を起こしても説明が付く。

と考えた訳です。

この解釈なら、彼がおこなった研究において

「胆嚢が既にない患者でも、発作が起き、アレルギー除去食によってその発作が改善される」事の説明が付く訳です。

実際、食物過敏を起こしている食品を除いて日常の食事をすれば、改善する例は、アメリカには数えきれないほどの症例があります。

今回は、「食品アレルギーによる数々の病気」です。